

2022/5/23

(うと Q 世話し きて、what should we do?) 前作書き直し書庫版



何故英語が世界の公用語になったのか？

英語圏国家が現在世界の覇者であるから？

嘗て大英帝国が世界を植民地化しその母国語が英語だったから？

確かにその面は否めません。

しかし幾ら英語圏国家が政治経済的に優位であったとしてもそれだけで公用語になるとは思えません。

何か他に理由がある気がしました。

それで思い当たったというか、英語を話す様になって実感したのが

「英語が一番汎用性に富み、話者の発想で如何様にも新たに作り出せるフレキシビリティを持っているから」

という事でした。

どこの国のどんな教育レベルの人も話し始められる取っ付き易い言語。

例えば

I go (過去形は went)

是を

I went through and up, down and through again then went more further.

と go の過去形 went の後に思い付ですがずらずらくつつけてみますと

「私は通り抜けた後、上がって下がって又通り抜けてそれからもっと奥に進んだ」

という即席の文章が出来上がります。

英語はイディオムをわざわざ覚えなくても話者の機転で連想想起的に幾らでも作り出せる

言語なのです。

そして今日の本題はここから。

処が我が国の英語教育にあり勝ちなのは

「是を丸ごとイディオム（暗記文型）化してしまう」

例えば上述の文章の up と down の順番が入れ替わっただけで、

「また別のイディオムを発生させてしまう」

傾向です。

以上は極端にデフォルメした例えですが現実には是に類した事が我が国の英語教育では頻繁に起こっております。

是では学ぶ側は覚えるだけになってしまい、いい加減ウンザリしてしまいます。

「一体英語は幾つイディオム（暗記文例）を覚えにゃいかんのだ？」

少し違うかもしれませんが、是は丁度外国人が

「英語はアルファベット 26 文字だけ覚えればすむのに日本語は平仮名、カタカナ、当用漢字、しめて 2100 が基本文字数。一体いくつ覚えればスタートラインに立てるんだ？」

全てローマ字表記にすれば 26 で済むものを何が何でも 2100 文字の「フル暗記スタート」を押し付ける。

確かに正しくはあるのですが、

「語学はコミュニケーションの道具であり出来るだけ使い勝手を良くすべきものである」という本来の趣旨から見れば阻害要因にしかありません。

この厳格主義が

「日本語の語彙数と同数だけ英単語が 1 対 1 で存在し暗記せねばならぬ」

という珍説拝礼を生み出します。

英語は「核になるイメージだけ決まっている言語」です。

一々個別固有のジャストな適格単語を覚えなくても動詞に前置詞（＝動詞方向付ガイド機能（詞））を付加えるだけでさえ幾らでも語彙を増やせるのです。

反対に言うと英語を母国語にしている外交官は大変です。

日常生活では極めて汎用性に富み大まかですんでいた言葉を外交会議の席上では逆に「ジャストな確英語を見つけて使わなくてはならなくなる」からです。

そして適格適語思考に満ち溢れた我が国ではこの外交会議の適格適語英語のみを「唯一正しい英語」として鼻から押し付けてきた明治維新後 150 年。

Then, what should we do?